

【2024年5月HPCの会】

*** 地域緩和ケア勉強会 ***

『 耐え難い苦痛を持つ患者を前に

私たちは何ができるのか 』

～ある2つの症例から見えてきたもの～

山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 山縣 裕史 先生

近年の緩和治療の進歩にもかかわらず、がん患者の一部では、緩和ケアを積極的に行っても緩和することができない苦痛を体験すると言われています。このような苦痛を「治療抵抗性の苦痛」と呼び、頻度が高いものは、せん妄、呼吸困難ですが、痛みや精神的苦痛も治療抵抗性となることがあります。

治療抵抗性の苦痛に対する治療の一つとして、苦痛を緩和するために鎮静薬を投与することがあり、「苦痛緩和のための鎮静」と呼ばれます。しかし、鎮静薬の投与は「治療抵抗性の苦痛に対してどのように対応するか」という状況での選択の一つにすぎず、「治療抵抗性の耐え難い苦痛が生じたとき、患者や家族の価値観をふまえた上でどのように対応するか」を考えなければなりません。

この度、苦痛緩和のための鎮静が行われた症例と、最期まで鎮静を希望されなかった症例について検討し、患者に耐え難い苦痛が生じた際に私たちに何ができるのかを考えていきたいと思えます。

日時：2024年5月24日（金）19：30～

場所：宇部協立病院リハビリ棟3階 多目的室

* オンラインでの参加も可能

【申し込み方法】

QRコードまたは下記URLよりお願いします。

<https://bit.ly/4cXu35j>



申し込み締め切り：2024年5月17日（金）18:00まで

事務局 宇部協立病院 地域連携在宅医療科 TEL：33-6111代